

1、奈良の歴史は長く・京都の歴史は深い



書物によると『奈良の歴史は長く・京都の歴史は深い』 そうだ。反論される方もあろうが、私は「なるほどナア」と思う。

先年亡くなった友人が「京都には自慢するものが多いが、一言で言えば『技能』だ。我々の先祖が積み重ねて来たものだけでも大変なもので、とてもお前のような公務員では判らん重みだ」という。彼は西陣に生まれ育ち、西陣織の世界で生涯を全うした。

昨年亡くなった友人も精進料理の世界で努力を重ねたが、似たことを言っていた。彼は自分の食事は圧倒的に『洋食』なのに、精進料理の献立に洋食を入れる余地がないと言う。「家庭のお晩菜に手慣れた『豆腐』や『湯葉』を使うが、精進料理となれば製造方・調理法・客人の様子・提供する間合いなど『一期一会』に大変な神経を使うものだ」と。

奈良は歴史が長いから、京都に負けぬ技能があるはず。しかし、名産・名物・名品で比べることもないが、小説家；志賀直哉 が奈良に住んで「奈良には、旨いものがない」と書き、これが現在でも通用するらしいのは如何なる理由であろうか？

これも先日の新聞記事、

奈良県の消費支出額は堂々の全国3位、小売販売額は46位。人口1000人当たりの飲食店数は3.4軒と全国最低の40位。奈良人は奈良では買い物をしないらしい。奈良に来る観光客は全国でもトップだが、宿泊者数は46位。年間約2万人も来る外国人観光客が、奈良に泊まらない理由を次のようにいう。「宿も設備も品揃えが自己中心的。勝手にせよと説明はせず、こちらの希望は察っしやうとしない。京都商人なら、こちらが希望する前にあれこれと言ひ、何か一言いうと可能な限りの接待をしようとするのだが」と。

奈良に住まう私にとっては、静岡・清水の友人たちに「奈良へ来いよ。いい宿があるし温泉があって、旨いものが一杯あるよ」と呼びかけたいのだが……

奈良の鹿はベーターベンがお好み？

交響曲第六番のホルンの旋律が吹き鳴らされると鹿が集まってくる



2、眠り薬 ありませんか？

拙宅近辺に食材を購入できるマーケットが5～6店もあり、私としてはどこへでもお供するしかないが、家内は、本日特売の店・○%引きの店・○曜日は○○が安い店・今日はポイントカード○倍で得する店etc と、それぞれ行くべき店にこだわりがある。それはそれで結構だが、私には行きたくない店もある。

昨年のこと。「東北大震災のため品物の入荷ができず、お客様にはご迷惑をお掛けしております。どうかご了承下さい」とアナウンスしている店があった。当然のアナウンスで文句言うべきことではないが、音量・口調・回数・間隔が異常なのだ。

この店のように大音量で、早口で、間隔を空けずに、何回も繰り返して放送されると、私の神経は打ちのめされる。「もっと小さな声でマを空けて言えよ！」と独り言で愚痴るが、機械に仕組まれた声は残酷に鳴り響く。それ以来、私はこの店の中へは入らない。

「早すぎるよ！」と季節感を疑う11月に始まるクリスマス音楽。ジングルベルが「爺ン狂うベール」と聞こえるが、狂っているのは店の主人のセンスではないのかね？

25日が終わると「もういくつ寝ると」。チョコレート売り場は奇妙な男女の下手な会話を繰り返す。3月3日が過ぎたらもう「柱の傷は^{なとし}一昨年の5月5日の背くらべ」とやりだした。静岡生まれの歌だから歓迎したいところだが、トンチンカンが過ぎる。売り場ごとに違うものを必要以上に鳴らすため、こんがらがって異様な空間が生じ、叩きのめされた私の頭は、寝ようと横になった夜の床で反逆を始め、昼間に聞いた音楽の旋律や歌詞が狂喜の乱舞を始める。“赤い毛氈ボンヤリめエ ちまき捨てましょ桃太郎 五人囃子が喧嘩して よく見りゃ官女の白い首” 助けてエー 睡眠薬が欲しいヨオ！



3、老舗訪問の楽しみ

前記と異なる楽しみを見つけた。老舗訪問である。

大阪ならターミナル駅のデパート。京都なら各種の名店街。奈良では大型〇〇モールへ行けば、その地の名産品、いや、世界の国々や他県の品も簡単に購入できる。便利になった反面安っぽくもなり、品物に添えられていたその地その店の香りや雰囲気失われやすくなった。買う方もそんなものは気にせず、手軽にあれば良しとした。

先日のこと。少し丁寧な贈り物をする必要があって京都五條大橋の『半兵衛 麩』という『京 麩』の老舗へ行った。入り口の構えが違う。祇園に近いのか古い町屋のままで、看板も見えず飾ったところもないので、少し戸惑ったが、思い切って格子戸を開けてみると、そこには別な世界があった。着物姿の女性はすぐに私の用件を察したらしいが、あれこれと言わず、さらりと誘ってくれる。麩といっても「なま麩」「やき麩」「笹巻麩」などいろいろとあり、形や色、大きさなども千変万化し、さらに調理によって異なった顔となる。ここでは「京ゆば」も製造販売しており、いずれも軽量な食品だろうが、しっかりと重みを感じさせてディスプレイに鎮座している。

店内にはかなりの客が入っているが、伝統の間仕切りを活用して小さく幾つかに区切られていて混雑は感じない。幾つかの品定めをして店員と話し合うのが近代の店と異なるところ。商談がまとまるとお茶が出る。改めて店内を見渡すと外庭の様子から壁面の飾り物まで歴史の重さは並大抵ではない。さらに、二階・三階へ上がってみるとそれぞれにこの店の昔を展示する「小博物館」となっていた。それやこれやを見て下ってくると注文の品が包装されて待っていた。

今後はなるべく時間を生み出して老舗へ出掛けようと思う。

- ◆ 春彼岸、暖かくなってきたから出掛けようとしたら眼の故障。目ヤニ少々、だが充血して痒く視力は低下。未経験だが、これが「花粉症」かと医者へ行くと「何かの刺激物が入ったの眼の炎症。目薬出します。治まったら通院の必要なし。白内障の気配もなし」だと。手術も覚悟したのに・・・

桜



佐保川

平城山

石正神宮外苑公園

河内湖湖畔

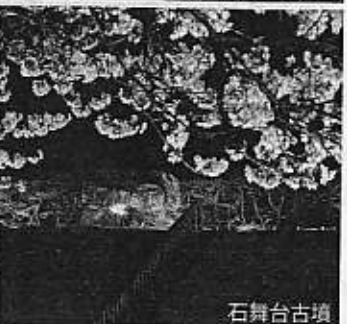
奈良の俳句と川柳 明るくなってきた

三寒や四温の日なり 初天神
 子を送る 大塔村は雪景色
 平城山や ざくざく踏みし霜柱
 生駒山背負いて 春耕始めけり
 白梅の香に去りがたし 城の門
 顔しかめ立つ仁王像 春の雪
 竹矢来掴み 修二会の火の粉待つ
 三山を見渡す窓に布団干す
 二上山 芽吹く麓の写真展
 田に下りし人も田の色 春日差し

手庇して 雪の金剛眺めおり
 雲水の吐く息白し 妙心寺
 鉄塔に冬の陽 沈む 生駒山
 月ヶ瀬の梅の便りにコタツ抜け
 浅春や 今朝 端正な大和富士
 剥落の仁王の顔に東風渡る
 食堂に待つ間も端座 修二会僧
 この坂を登れば見える春の海
 皇子眠る山の麓の草の餅
 山崩れ? 皆が書いてる「山笑う」



山口 永澤神社 写真提供:奈良市観光協会



石舞台古墳



おほら御音



葛城山



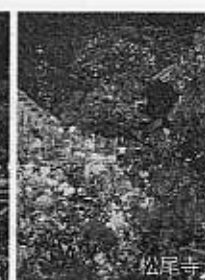
春日天石楠花の丘



生駒



長谷寺



松尾寺

三月 銭湯風景

「あんた! モソット向こうでシャワーしい!」
 「あんたが向こうへ行きなはれ!」
 「向こう行き! 汚い水が掛かるヤンカ!」
 「汚ノウナイ! 今、洗ロウてイル最中ヤ!」
 梅と喧嘩は奈良の華。ゴメン・スマンは禁句?

